

## 平成26年度 第5回 府中市文化財保護報告会議事録

**日 時** 平成27年1月19日（月）午後2時

**場 所** ふるさと府中歴史館3階展示室

**出席者** 田中会長、猿渡副会長、小澤委員、副島委員、中村委員、福嶋委員、馬場委員 以上7名

**事務局** 江口課長、黒澤課長補佐、和田郷土資料担当主査、中山主任、荻野事務職員、小林事務職員

**傍聴者** なし

### 1 審議事項

**会長** それでは審議事項（1）について、事務局の説明求めます。

#### 審議事項（1）国史跡武蔵国府跡国司館地区保存活用整備について

**事務局** まずタイトルにありますように、本来は文化庁の国史跡の場合は「保存整備活用」と付けるところを、今回は敢えて「保存活用整備」といたしました。本事業は歴史の本質的価値をきちんと保存・継承していくのみならず、J R駅前ということで活用する形で進めていくべきだというご意見を地元も含めて頂いておりましたので、今回は、保存して、活用して、活用するために整備するというので、このタイトルといたしました。

また、本来、国史跡の指定地に活用の施設は作ってはいけないと、文化庁は当初は仰っていたのですが、これまでの粘り強い交渉の中で、なんとか文化庁も国史跡指定地の中だけど、必要な施設を作っても良いでしょうと仰っていただきましたので、ようやくこういう形で府中市として基本設計案をまとめさせていただきましたことを、ご理解いただきたいと思います。

それから、今日は初めてこの案をご覧いただきますし、また欠席の委員さんもいらっしゃると思いますので、今日は幅広くご意見をいただいて、この基本設計案については本年度中に議会に報告してパブリックコメントをもらって、市民の幅広い意見を頂きながら、本年度中にまとめていきたいと考えております。

今日、ご説明させていただいて、ご意見をいただいて、明日以降にもご意見を再度寄せていただきたいと思いますので、事務局にご連絡いただければと考えております。

それでは、資料1平成26年度国史跡武蔵国府跡国司館地区保存活用整備基本設計（案）説明書について、ご説明いたします。

先ず、『ともにつくる「府中歴史のオアシス」』というサブタイトルを付けさせていただきます。

このサブタイトルですが、資料1の3枚目、「国史跡 武蔵国府跡 国司館地区の保存・活用・整備が目指すもの」に記述してありますように、本計画のテーマです。

「府中歴史のオアシス」は、本市の歴史を象徴する奈良時代の国司館と江戸時代の家康御殿跡という歴史的遺産を活かして、様々な世代の人々が集い、交流し、憩う場として活用・整備するものです。

「府中歴史のオアシス」は、府中市民の誰もが持っているふるさと府中意識の向上を図り、市民の知的創造や交流を生み出し、地域力を高めていきます。そのためには、庁内関係課や関係機関はもとより、市民との協働や民間活力の導入を進めて、日本一JRの駅に近い国史跡という立地を生かし、市内外から様々な人たちが集う憩いの空間「府中歴史のオアシス」を創出します。

首都圏で、日本一JRの駅に近い史跡という立地環境から、国史跡の保存・整備事業の類型を超えて、歴史的遺産の活用と駅前のにぎわいを積極的に融合させる計画です。

基本設計では、このような国内でも類のない史跡の保存及び活用整備を「府中歴史のオアシス」と名づけました。

次ページからが本計画の二つのポイントと基本的な三つのコンセプトです。

これらは後ほどご説明します。

次ページが目次で、これまでの経緯、基本設計の前提条件、基本設計の内容、今後の課題の4章立てになっています。

次ページからがこれまでの経緯です。

1 ページが指定地の概要。

2 ページが平成20～23年度に行った発掘調査の成果。

3 ページが国史跡追加指定の件で、平成23年2月に国史跡に追加指定された際の文化庁の指定理由です。

4 ページが平成23年度の市民懇談会での提言と翌年度の基本計画提言書です。ここで国司館地区が3つの区域に分けられ、それぞれの機能や方向性が決まりました。

5 ページが昨年度行われた保存管理計画で整備・活用と運営・体制整備の基本方針をそれぞれまとめました。そして、今年度が基本設計で、国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討協議会を設置し、既に2回開催し、その検討内容と文化庁からの指導・助言をいただきながら府中市として今回の基本設計を策定しました。

6 ページが先程も出てきた基本方針です。本計画の前提条件は2つあり、1

つは歴史的遺産を後世に伝えることで、もう1つはJR府中本町駅前にあるという立地を活かし、にぎわいのある空間を創る。その2つを両立させることです。

そして、これら前提条件を満たすコンセプトを3つ具体化することにしました。1つ目は歴史的遺産の保存と継承、2つ目は地域アイデンティティの形成と人材育成、3つ目が情報発信とにぎわいの創出です。

7ページがこの計画の構成です。

8ページが活用の基本方針です。まず活用を前提にし、それを実現するにはどういった整備が必要なのかを考えて構成してあります。それから、9ページにかけてが活用の取組です。

10ページが活用カレンダーです。

11ページが今までの活用事例です。

12ページからが8～9ページの活用の取組を実現するための、保存・整備の基本方針です。

(1) 大前提の遺構の保存です。

(2) 基本計画提言書で示された区域分けに従って、「古代の空間再現ゾーン」、「にぎわい創出ゾーン」、「国衙地区（大國魂神社）連携ゾーン」に分けて整備します。

(3) 整備行程は、市の財政負担や民間の活力の導入を目指すために、段階的な実施工程を計画します。

(4) 計画地南側の公開空地との連携を図ります。

13ページからが基本設計の内容です。

まず配置計画です。

14ページが個々のゾーンの詳細計画です。

15ページが全体配置図です。

16ページからが、国司館の中で復元する建物です。

18ページでそれぞれの遺構の表示方です。

19ページは国司館主屋（正殿）の復元方法の検討です。

21ページが主屋の平面図と立面図です。

22ページでは復元建物内での展示方法です。

23・24ページが具体的な国司館内での展示内容です。

25・26ページが脇殿と附属建物で、柱を建てて屋根を掛ける古代風の復元です。

27ページは竪穴建物跡と大型円形土坑で、原状遺構の上にこの様に復元します。

28ページからは施設計画です。

15ページの全体配置図をご覧ください。JR東府中側に徳川家康御殿の井戸の実物がありますので、それを保存しながらその上にガイダンス施設兼物販施設という活用の核となる施設をここに設置します。

31ページをご覧ください。これがこの建物の1階平面図で、大事な事は、建築物として設計しておりますが、これから幅広くご意見・事業提案等を頂いてにぎわいを創設する施設を考えていきたいと思っておりますが、その元となる形で設定しているものです。1階がミュージアムショップ、団体見学用の多目的ホール、事務室で、2階が物販飲食エリアと設定させていただきました。立面図は34ページです。

35・36ページが外構整備です。こちらは協議会等でご意見いただいたものを踏まえて、外は屋敷林としてのシラカシを植えて、この中に入ると古代の空間が感じられる様な形で借景を配慮してございます。

37・38ページが工程計画で、全部一遍にやるのではなくて、先ず1期目で古代の空間再現ゾーンで国司館の復元整備、2期目に広く事業提案いただいて幅広く検討した上でにぎわい創出ゾーンを整備、3期目に大國魂神社との連携も含めて国衙地区連携ゾーンを整備します。来年が実施設計で平成30年度の竣工で完了するという予定にいたしました。

その概算工事費はトータルで10億円近くになりますので、28年度は文化庁からの補助が頂けますので、実質、市の負担はその1/4になります。29年度は幅広く事業提案を頂きながら、まちづくり関係の交付金等を活用して、国の1/2の交付金等が得られるように進めてまいりたいと考えております。30年度は文化庁の補助が頂けますので総事業費の内、国の交付金等が半分近く、東京都が1/4近く頂けますので、実質の市の負担は3億4000万円位になることを目指して、なんとか財政的にもご理解いただけるように努めていきたいと考えております。

それ以降が、概算工事費の内訳と管理費の想定の内訳です。

最後の46ページが今後の課題ということで、関連施設のネットワーク化と現在市が推し進めている公共施設マネジメントの視点と幅広い視点にたった地域の活性化ということで第2期整備以降については民間からの事業提案を頂きながら幅広く交付金等の活用を考えていくことを記載させていただいております。

以上です。

**会長** この場所に立ったことはないのですが、富士山は見えますか。

**事務局** 現状ではあの場所からは駅舎に遮られて見えません。

**福島委員** この2階建の建物でも見えないのですか。

**事務局** それだと見えます。そのために2階に物販・飲食関係を設けたものです。

**会長** 元々は富士山がそこから見えるから建物を作ったのではないですか。

**福島委員** 富士山が見えると利用者も増えるのではないですか。あの場所だと駅舎だけクリアすれば視線を遮る物は何も無いですよ。

**事務局** はい。

**会長** 2階から見るとかな。

**福島委員** あるいは火の見櫓から見るとか

**馬場委員** 多摩川の眺望も可能なのですか。

**事務局** 南側のマンションの屋上の公開空地から多摩川や多摩丘陵をご覧いただけます。

**会長** 何か質問があったらお願いします。

**中村委員** 国司館地区の竪穴建物は再現建物は作らないのですか。

**事務局** こちらは平面表示にします。

**中村委員** 竪穴建物というのはたぶん、色々な人が興味深く見るのではないかと思います。国府の主要な建物はもちろん必要ですが、それらはそんなにも珍しくなくて、竪穴建物は小中学生も関心を持っているのではないかと思います。それである意味では主力の建物と（対比する意味で）そういう建物も在るのを示すのも体験学習の意味では効果的なのではないかと思います。

**事務局** 私達の方で当初から造るのではなくて、体験学習の一環で色々な形で復元実験が可能ですので、そういう形で将来的に復元を体験するというのが可能なのかなと考えていますので、敢えて竪穴建物は再現しない予定です。

**中村委員** 竪穴建物はこういう物だと押し付けるのではなくてということですか。

**事務局** 竪穴建物も土屋根や茅屋根もありますので、そういう実験も兼ねてここには造らないでにおいて子ども達で復元実験をしていくのも可能なのかなという意図で竪穴建物は当初から造らない形で考えております。

**福嶋委員** マクワウリはここに植えるのですか。植えるのであれば何処にでしょうか。

**事務局** 15ページの配置図をご覧ください。国司館の周りに植栽広場と書いてあります。国司館の裏庭になるのですが、国司館の時代に当る万葉集を地元の市民の皆さんに募って国司庭園の様な形を作っていきたいと考えております。それがこの図の黄色の部分です。それとともに、本来マクワウリは家康御殿のあったJR府中本町駅側に植えるべきなのですが、同じ万葉の庭園の北側の一番端の所にそのコーナーを作っていきたいと考えております。

家康御殿側は広く使えるように多目的広場にし、園路もテントを張って市もやれるようにしたいと考えておりますので、そういう計画になっております。

**福嶋委員** 分かりました。

**事務局** 補足ですが、あくまで活用のための施設はあるのですが、中に入ると古代の歴史的な空間が感じられるようにするのが大前提ですが、それだけでは年間を通して特にリピーターの確保をする、皆さんに幅広くこの施設を知っていただく、学校教育だけではなくて市内外から幅広く来ていただくために、このガイドンス兼物販施設を造るということです。

**副島委員** 社会教育的見地ではなくて、学校教育との連関を意図して作られると思うのですが、学校教育の場合、例えば小・中学生が学校から来て、そこで何時間位過ごす施設を想定されているのですか。

**事務局** 今、総合学習の一環等で考えると、1学年がまとまって来る形が多いので、1時間位で体験していただくのを各学年毎に繰り返していただく形を考えています。

**副島委員** 国司館がそういう展示その他の機関として教育の、簡単に言うと史

料館的な雰囲気になるとと思いますが、実際にはどなたがそこで活躍なさるのですか。

**事務局** 私達、学芸員が主体にはなるのですが、ふるさと府中歴史館と同様に地元の市民の皆様がガイドボランティアとして関わります。熊野神社古墳展示館の運営をしている地元の保存会の様な組織をこちらで作っていきたいと考えております。

**副島委員** もっと主体的に資料館・博物館といった展示・教育施設として専門の学芸員を配置するお考えは無いのですか。

**事務局** はい、私達学芸員である市の職員が担い手になります。

**副島委員** そうすると、常設展示ではなくて、常動展示という言葉を使っておられますが、様々なイベントをしていく時に、企画・立案は教育委員会の中のふるさと文化財課で担うということですか。

**会長** 将来的には人は要るのではないの。

**事務局** それは例えば大学等にお願いしていく等、幅広く検討していきます。決して私達だけが担うのではなくて、そういう方向性を逆に考えていきたいと思えます。

**副島委員** 折角、国司館とこれだけの空間が有りながら、全体的傾向が学校教育とか小・中学生向けの施設という感じがします。最初から子供を育てるといふ観点があるのは仕方ないとは思いますが、研究内容を見せるというよりも、古代に関心を持ってもらうという啓蒙施設的な感じがします。その辺のバランスはどのようにお考えですか。

**事務局** 展示内容に付きましては、専門的な見地から国司館と古代武蔵国府を伝えるということで、22・23ページにその案がありますが、中村先生にもご指導いただきながら、展示物の学術的なことはきちんと今までの調査成果を踏まえてやっていきます。その上で教育委員会として文化財の保護・活用をする観点から、子供たちより分かりやすく伝えることが必要ではないかという気がします。このふるさと府中歴史館の展示もそうなのですが、子供たちに分かりやすい展示が重要ではないかということでこの様な形にしています。

**副島委員** 小さい子のための教育機関ということで、どうしても捉えられてしまう。多くの方はその背後にある研究レベルの事はきちんとされるのでしょけれど、若い人達や、学童・児童に伝えていくということで教育・普及面を重視していくのはもちろんですが、博物館の運営に携わるとよく分かるのですが、普及・啓蒙というのは相手が子供になればなるほど、その後ろ側にある研究は高度な物に成らざるを得ない、そしてそれを伝えていく工夫もより高度な物に成らざるを得ない。大人に伝えるのは研究の途中でも良いし、研究の素材を提示しても良い。だけども子供になるとより高度な研究体制が求められることを常々感じる事が多いのです。そこら辺は分かっていたきたい。そうでないと普及・啓蒙の基礎がしっかりしていない組織ないし活動になってしまう虞もあるので、その辺も考慮していただけると良いと思います。

あと、これは府中市の考え方ではありますが、高々年間乗降客数が2万人を切るこのJRの駅と6～7万人になる京王線の府中駅を比べた時に、JRの駅から一番近いというのは若干違和感があります。私はJR府中本町駅から大國魂神社へ来たことが無いし、どこか田舎から来る人にそのJRの駅へ行けと言ったら、新宿から京王線に乗って府中駅から行こうと考えると思うのです。だからJR府中本町駅から行かない。だからJR府中本町駅から近いことを強調する必要は無いのではないかという印象を持ちました。

**福嶋委員** 私は反対に、駅前にあるというのは、乗降客数とは別に駅のこんな近くにこんな施設があると謳うのはおもしろいと思います。

**事務局** 地元、特に本町の駅の西側の方が、中々にぎわいが無い、このままではという危機感がある。そこでJR府中本町駅を史跡を起爆剤としてまちづくりの活性化に繋げて行きたいという強い地域としての思いがありますので、今回こういう形で、特にJR府中本町駅と大國魂神社様との連携を主眼として置いているのです。

**副島委員** それはそうなのでしょうけれども、府中市の指定文化財ではなくて、国の指定文化財なので、駅周辺のにぎわいという大変ミニマムなところで、にぎわえば良いというよりも、武蔵国全域、あるいは関東全域、日本全体に対して発信していく時に、駅に近いというのを強調するのはどうかと思います。

**会長** JR府中本町駅は競馬場をかなり意識していると地元の人達は言ってるね。競馬場に一番近いと。そういう事に関して駅の西側の人はコンプレックスを持っているのではないかな。



駅から競馬場へは雨に濡れないで行けるように通路が作ってあって、土日のにぎわいは大変なものです。場外馬券があるので、土日は年中混んでいる。僕の友達にも、家の駐車場に停めたら競馬場に行けるよと言っている。あるいは、勝手に停める人も居るし。本町の駅自身の近くにそういう施設がある事を誇りに思うというか、そういうイメージなのかな。

**副島委員** 国司館は文化の象徴で、そんな高級な感じが持てないのですが。

**会長** 地元の方は、ものすごく期待している。

**中村委員** 国司館は見つかれば全国にある。全国で唯一ということではない。ただ、ここをイベント広場的に使うのは、町にとっては非常に有益だろうと思います。国司館というだけでは大勢の人は集まらないかもしれないけれど、イベントを絡めて国司館の存在や、そこから大國魂神社や武蔵国府跡とかふるさと府中歴史館が在る事を知ってもらう入口になるという意味では、大いに宣伝したら良いのではないかと思います。

あくまでも駅に近い入口的な施設にして、先程の研究の話もここで研究の成果を全部説明するよりは、郷土の森博物館が研究拠点になるので、その成果を一部分ここで示すぐらいで良い、館内面積や容積の制限もありますから。

JR府中本町駅は武蔵野線の始発駅なので、あの線の列車本数が増えたりすれば、乗降客もたぶん増えると思う。近くに大きな商業施設が無いのがこの駅としては痛いのでしょうか、それは駅の西側がどうするかですが、ここはここで、こういう整備をするのは大いにあり得ると計画だと思います。

**馬場委員** 史跡名が、やはり古代の方に偏ってしまったので、家康御殿という江戸時代の史跡の影が薄くなりかかっていますが、府中にとっては歴史の継続性というのを、この土地でもっとアピールすれば良いと思うのです。

府中全体の歴史の中で、この土地が占めてきた意味は、国司館と家康御殿の両方を出すことですごくアピールできると思うので、府中市民にとってそういう認識でこの土地を見てもらう、そういう核に大國魂神社がある。その一体感を、縦軸と横軸の一体感をここで象徴的に表せば良いのではないかと思います。

**福嶋委員** 馬場先生のご説明はすごく分かりやすい。私も全く同感です。やはりこの場所だけに特化するのではなくて、府中市全体の中でここをどう位置付けるのかはすごく大切だと思うのです。だから馬場先生の仰ったアプローチは是非生かしていただきたい。

もう1つ、この施設をアイデンティティを持った物にするというのは良く分かるのですが、基本的には、ここに歴史館があり、そこに新たな施設を造る。そうすると、展示内容とかで、どの様な棲み分けをするのでしょうか。どの様な共通性を持たせるのでしょうか。その辺を明確にした方が良いでしょう。両方同じ展示をするのか、それとも個性を持った展示にするのかです。金太郎飴が二つあってもしょうがないです。個性を持たせながら、こちらとの共通性も持たせるその両方を要求されている気がします。個性を際立たせると同時に共通性も持たせるのが必要なのかなと思う。共通性というと、馬場先生が仰った全体の中での位置付けでになるとおもいますが。

**会長** どちらかという江戸時代の特徴が無くなる、なんとか工夫しないと。

**馬場委員** 地元の方にとっては、そこがこの土地の特徴で、御殿跡という地名の方が残ってますので、そのイメージをやはり大事に膨らませた方が受け取り易いのではないかなと思います。

それが、発掘してみたら、古代から繋がってた土地なんだという、歴史の膨らみがぐっと増すと思うのです。古代と江戸時代の分断をしない方が良いでしょう。

**中村委員** 今の計画だとガイダンス施設が家康御殿の再現で、古代の空間再現ゾーンの主要建物が古代国司館の再現と考えているということですね。

**事務局** そうです。当初は一緒にガイダンスと考えていたのですが、ここは防火地域で駅前なので、残念ながら木造建築物は原則的には造れませんので、例えば国司館の方で、古代の何らかの木造建築物の復元が出来ればそれをガイダンスとして、連続性をもって古代から説明することは可能だと思いますが、今回、現地はまず古代国司館を再現して、その中を展示活用施設として使うことに意味があるということで、そうしました。

まず、駅から来たときに、入口ではこの場所が古代から近世まで連続した場所であるという説明をガイダンス施設でやります。そこを押さえた上で中に入ってもらいと古代の歴史空間が再現されているというストーリー付けをしています。

**福嶋委員** ひとつ希望ですが、府中本町駅の構内には何も府中市の歴史的な展示施設の紹介が見つからない、だから、今回これが出来るのであれば、駅も取り込んだ形でここからこういう物が見えますという、駅と連携した大きなスケ

ールの取り組みを是非お願いしたい。JR府中本町駅には南武線のホームの案内と出口があるだけで、ここはこういう歴史の場所ですよ、大國魂神社がありますよ、とかの表示が無い。知っている人しか知らない。

人を呼び込むのであれば、今度来てみようかなとなるような表示が必要です。だから駅との連携も必要です。

**馬場委員** たまにやってくれます。

**事務局** その点については、協議会の委員にJR東日本八王子支社の企画室の方がいらっしゃいますので、お願いしてみます。

**会長** 他所から来る人は全然意識していないんだね。乗り降りする市民だけを相手にしている。あとは競馬に来る人。

**福嶋委員** 競馬に来る人も行ってみようかと思うかもしれない。

**馬場委員** ここは来場者は車では来ないのですか。

**事務局** 駐車場は残念ながらありません。将来的に出来る市役所新庁舎の方で大型バスも含めた駐車場を整備する計画ですので、新庁舎に停めていただいて、徒歩でお宮も含めて来ていただく予定です。ただし、管理用の車等は止められます。

**副島委員** 市役所新庁舎は何処に建てるのですか。

**事務局** 現位置で7年後に出来る予定です。

**会長** 文化施設を造るときに、駐車場を作らせないということだったかな。

**馬場委員** そういう考え方は良いと思う反面、武蔵国全体を考えようとなるとやはりどうしても車で来る人のことも考えないといけないと思います。

**会長** 子供たちというのは、学校単位でバスで来る。府中市では上手くやっていて、ピストン輸送というのか複数の学校が同じ日に来る。それぞれ時間帯を替えて来る。だから当然バスの乗降が出来る場所が必要になる。

**福嶋委員** JR府中本町駅のロータリーにバスを停めるといのはどうですか。

**会長** この図面でいうと、バスの乗降をするスペースはあるみたいですね。

**副島委員** やはり、既存の複数ある文化施設とどの様に役割分担するのか。おそらく一番新しく出来るこの施設、物販・飲食の設備がある御殿に位置する建物を府中市の文化施設のどこに位置付けるのかです。

ガイドンス施設にするのなら、ここに来てから他の施設に廻る。複合文化施設のガイドを行う機能を持たせると良いですね。

**馬場委員** それすごく良いですね。ここの場所の象徴性もそれで言えますからね。奈良時代の国府の時代から、江戸時代の御殿の時代まで、府中はこう続いていた町ですと最初に勉強してから、他の文化施設を廻ってもらえば良い。

**福嶋委員** この付近は、歩いて行ける距離ですからね。

**副島委員** そのつもりなら、歩いて行ける。

**会長** 周辺施設、この施設と大國魂神社とのアプローチというか、その辺の計画は作っておく必要はあるね。

**福嶋委員** 行き先表示とおりに歩けば一通り廻れると。

**馬場委員** そもそも江戸の末に、この国府台を観光施設として使おうとした時に、神社の裏から道を付けて、国府台に至る新しい道を作ったと文献に書いてあるのです。それを上手く逆利用すれば、この施設から神社へ誘導できる。

**福嶋委員** 坂を下りるのですか。

**馬場委員** 神社の裏手から廻って金比羅さんの方から出たのではないかと、安養寺側の方へ向かって通り抜けた。今でも階段が付いていますね。

**猿渡委員** そうですね。

**副島委員** 家族連れでも、年配の方でも、コースを作ってあげると、それではそのコースで廻ってみようとなる。時間があれば郷土の森まで足を伸ばそうと

か、様々な事を考えられるので、各文化施設を（所要時間と距離を表示した）線で結んであげると良いかもしれません。

**会長** 細かい文章の語句に問題はないかな。いろいろな問題はあるのですが、全体としての計画は良く出来ていると思う。

**副島委員** 最初の説明で、普通は整備活用とするが、これは活用整備とした。その思いは十分に伝わるのですが、その意図をもう一度説明していただけますか。

**会長** 表題の「保存活用整備」に「保存・活用・整備」とナカグロを入れないのには意味があるの？

**事務局** それは1つの語句として連続しているという意味ですがナカグロを入れなければいけないのかもしれませんが。この資料の7ページに書いてあるのですが、基本コンセプトがあって、それに基づいて、まずは保存がある。その後、どの様に活用するのかがあって、その活用のために整備していく、その整備は具体的にそういう配置で計画に基づいてやっていくという考え方で、「保存整備活用」ではなくて「保存活用整備」と言い直したということです。

**副島委員** （従属概念の）活用のための整備で、（等位概念の）活用と整備ではないのですね。「活用整備」と並べた時に、「～のための～」と皆さんに分かるかな。

**福岡委員** 「保存整備」と「活用整備」じゃないのかな。

**副島委員** だからナカグロを入れてないのですね。

**福岡委員** 保存が一番大切で、次が活用で、そのために整備するのじゃないのかな。並立概念かどうか。

**副島委員** 「保存活用」が一組の言葉ではないのですか。それで活用が整備の前にあるからといって保存を活用より優先させているという気持ちは伝わらないとおもいます。

**事務局** そうではありません。保存して、活用して、整備する。保存が先ず第

一です。

**副島委員** 「保存整備」と「活用整備」ではないのでしょうか。「保存」と「活用」があって「整備」がある。

**中村委員** 昔は「保存整備」としか言わなかったのです。そして、「活用」が大事だとよく言われるようになって、「保存と活用のための整備」となった。

**馬場委員** 保存して活用するための整備ですね。

**会長** 「保存活用」で1つにして、ナカグロ入れて「整備」とやった方がまだしも正しいと思う。

**猿渡委員** 完成後は、鷹匠を呼んでイベントをやったりするのかな。市長が国司の格好をしてとか。

**事務局** はい、それが主体となります。

**猿渡委員** ケヤキ並木では飛距離が足りないから、流鏝馬とかもここでやった方が良いのではないかな。

**中村委員** 「活用」の中には駅前だということで、国府なり御殿なりに直結しない活用だってあるのだということですよね。史跡そのものの性格から多少離れても活用すると。

**事務局** 保存に影響しない範囲においてそうです。

**中村委員** 盆踊りだって有り得る。奈良時代には現れない、極端な事を言えば、競馬祭りをやるかもしれない。まちおこしの為の活用にも使ったら良いのではないかと思う。

**副島委員** それでは只の広場になってしまう。

**福嶋委員** 多目的広場にするのではないのですか。

**副島委員** 盆踊りに使えるなら、クリスマスにも使えてしまう。

**福岡委員** 地域のまちおこしとしても期待されているのでしょうか。訪問者が増えることはまちおこしに繋がるのではないですか。

**事務局** そうですね。当然どういうイベントが相応しいのかは、今後、委員の皆さんを中心に議論していきます。今流行りのアートの世界をここでやるとかも良いかなと思っています。

**馬場委員** ここで、3Dプロジェクションマッピングをやって国府台の紹介をするとか。

**事務局** ただ、庁内でも議論をして、副島先生が仰ったように、只の広場にすれば良いのではないかという意見が庁内では根強いです。それで、旧町田市役所の庁舎が只の広場になって、そこは今、芝生広場にして、非常ににぎわっているということもあります。ただ、それだけでは、この国の史跡の価値、馬場先生が仰ったように府中を象徴する場所なので、単なる公園としての広場だけでは駄目だと思いますので、それも含めて活用する計画を考えたということです。

**副島委員** このエリアは24時間出入り出来るようになるのですか。

**事務局** 南側の公開空地との通路だけ24時間開放します。それ以外は夜間閉鎖します。ただ、出来れば夜間照明をしてデートスポットみたいにしたら良いのかなと期待は持っていますが、原則夜間は閉鎖です。

**会長** 閉鎖の方が良いと思いますね。

**中村委員** 夜間開いているとたぶん自転車置き場にされる。

**会長** それとホームレスが居住するようになる。

**副島委員** 広場を閉鎖すると広場ではなくなるのではないかな。でも仕方がないか。

**馬場委員** 夜間開けておくと、管理責任が発生します。

**副島委員** どうしても閉鎖するというのがこの国の考え方で、例えば欧米の美

術館は建物に入る時に切符を切る訳ですが、日本は塀の中に入るときに切符を切る。共有空間に知らない人が入るのを嫌うのです。ドアに入ればその建物に入ったという感覚を持っていなくて、敷地に入ると領分を侵すという考え方があるのでそうなるのでしょうか。もったいないですね。

建物の中に自由に夜中も入れても良いという話をしているのではなくて、お宮もお寺も入って本当は入って良いよというのと同じで、入って良いのかなと思いました。

**会長** 未だその辺は流動的なのでしょう。

**事務局** はい、その辺は検討中です。

**会長** それでは、今日のところはこの辺で宜しいですか。それでは、これで進めていただくということにします。

それでは次の報告事項（1）について、事務局の説明求めます。

#### **報告事項（1） 高札場の修理について**

**事務局** 後ろ資料2をご覧ください。高札場の屋根の鉄板が剥がれて、その下の木がだいぶ腐ってきていたということで、所有者（大國魂神社）で修理していただきまして、左側の写真が遠くからのので、右側の写真が修理箇所のアップのです。

修理前は板がむき出しになって傷んでいたものを、下のように鉄板を貼って直していただいたということになります。

以上です。

**副島委員** 東京都の補助事業で修理なさったのですか。

**事務局** 神社で直していただきました。

**中村委員** 色がずいぶん違いますが。

**事務局** 修理前は日陰時の撮影で、修理後は日向時の撮影で色は違って見えるだけです。

**中村委員** いえ、直した箇所の色のことです。



事務局 特に色を塗っていないものです。

中村委員 我々が普通には見えないところですね。例えば時間が経つと周囲と同じ色にのびますか。

猿渡委員 そうなると思うのですが。板材はトタンです。

副島委員 他の箇所は錆びているということですか。

事務局 そうです。

猿渡委員 それで、ここの展示ですが、馬場委員さんが郷土の森の常設展示室で、高札場の模型を作り、そこに高札が掛かっている状態を再現されていました。

馬場委員 私ではなくて、花木学芸員ですけども。若干小さくなっています。

猿渡委員 それを見ると、高札場としての役目・用途が理解しやすいのです。ところがこの高札場は、只の柱を見ているだけなのです。史跡としては何か付いている方が分かりやすいと思う。そういう展示をした方が良い様な気がするのです。同じ様な札を軽い素材で作って掛けるとか。

馬場委員 あるいは、札の内容をまるまる復元ではなくて、例えば府中市の事が書いてあるとか、ここはこういう場所でしたという説明が書いてあるとか。そういうのでも良いかなと思います。幾つかは復元した物を入れるとしても。

福嶋委員 機能がはっきり分かりますね。

猿渡委員 よければ札を複製で作って掲げてみるのはどうですか。

馬場委員 高札場とはこういう物だと一目で分かるようになりますね。

会長 木より軽い物は作れるのでしょうか。

猿渡委員 樹脂で軽い物は作れますね。ただ風に対する強度はどうなのかありますが。

馬場委員 柱の下に受けを作って留めるとかありますね。

副島委員 この高札場には説明みたいなのは無いのですか。

馬場委員 いえ、あります。

猿渡委員 ありますが、ここをバスで通った方が何だろうと思う。これだけではイメージは湧かない。

副島委員 門か何かかと思われてしまいますね。

馬場委員 普通は、御旅所と一体の物だと思われてしまうのです。元々は旧甲州街道に面していたとかがその説明には書いてあるだけです。

中村委員 元々は角度が違うのですか。

馬場委員 ここの交差点を隅切りした時に、斜めになる場所に移設したのです。

会長 郷土の森にあるのは何が書いてあるのが掛かっていたのですか。

馬場委員 あれは実物です。高札場自体は縮小した模型ですが、札自体は実物です。

会長 そうすると、高札場に対して札が相対的に大きい感じに見えるのですね。

馬場委員 若干ですがそうです。というか掛けてある札の枚数は減らしてあります。

会長 そうすると、あれ位の札を掛けるということですね。以外と小さいね。

馬場委員 史跡の方には札は10枚掛かっていました。

福嶋委員 墨は意外と残るのですね。

馬場委員 墨の部分は墨が消えても盛り上がっているのです。後から上をなぞって、墨入れを何年かに1回やるのです。

会長 墨が無いところだけ減っていくから立体的になる。札の複製は市でやりますか、大國魂神社でやりますか。

猿渡委員 提案はするのですが、どうするからこれから考えます。

馬場委員 東京都の史跡なので、東京都と相談してからとなりますね。

会長 史跡だから勝手に新しい物を取り付けるなんて出来ないよね。

福嶋委員 そうすると、東京都教育庁に許可をもらってからということになりますか。

事務局 いずれにしても、変更計画があつたら東京都に上げないといけないですね。それと札を取り付ける取っ手が現状はあるのかどうか。あるいは、取り付けるにあたって何か別のものを取り付けるようにするのかとかですね。

文化財なので基本は傷を付けてはいけません。

馬場委員 止め具が残っている部分もあります。

事務局 ただ、仰るように只の門という感じですね。だから、別のものを近くに置いてそこでこういう風に掛かっていたというのを見せるとか。どうみせるのか考えないといけないということだろうと思います。

会長 僕らが知っている頃でも、札が掛かっていたのを見たことないな。

馬場委員 明治5年に太政官が出したのが最後の札です。それがたぶん10年位は掛かっていたのです。高札を止めるという法令が出るのです。高札にはいくつかのパターンがあるのですが、札に穴が空いていて、それを柱の釘状の物に引っ掛けていたり、あるいは高札自体に針金が付いていて、それを柱に巻きつけるということをやっていたりです。

副島委員 今ある柱に穴を開けるとか、紐を掛けるとかは難しいですね。

馬場委員 工夫をすれば、紐でくくるとかすれば、支えが外から見えない方法で取り付けたとか、何か方法はあると思います。

**副島委員** 別の柱を側に立ててそこに取り付ければ、東京都も文句は言えない。そういうやり方もある。だから、割と実現性はあると思う。掛ける札も、博物館に保存してある現物から複製すればよいし。

**猿渡委員** さっきのじゃないけど、活用としては札を付ける方が良いと思う。

**馬場委員** 奈良の三条通りに高札場があつて、鹿に向かって書いてある札が掛かっているのです。そこには、フェイクの札がいくつか掛かっていて、その中には鹿向けの内容の札があるのです。

**事務局** いずれにしても、高札場に札を付けるのは、猿渡先生と十分に話し合いしてからですが、活用ということでやりたいですね。

**会長** いずれにして、分かりやすいのが良いよね。

**福嶋委員** 高札場の屋根はこのままですか。

**猿渡委員** 下の板葺きは痛んでいるのですが、台風で鉄板が無くなったので応急処置として、鉄板を付け直したということです。これをこのままにするのかは、また相談しないといけないのですが。下の板葺きの修理まで含めると大変なことになるので。

**会長** それでは、報告事項についてはここまでとします。

次回は平成26年度の府中市文化財保護審議会の第6回です。

日程は、3月27日（金）午前10時からとなりました。

期日が近づきましたら、委員の皆様のご都合を合わせ、実施することといたします。